

S. M. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

幼い頃から英語を習っていた影響で外国文化や言語に興味を持ち始め、大学受験を機に本格的に留学を考え始めました。そして協定留学制度が一番充実していた同志社女子大学へ進学しました。当時は英語英文学科に在籍していることから、また英語をずっと学んできたことから、英語圏への留学を第一希望に考えていました。しかし実際に外国人観光客の多い京都・祇園で接客業のアルバイトをしてみて、英語はもちろん大切ですがそれ以上に中国語を使う機会が多いこと、また中国語を話せる人材の不足から、様々な外国人観光客に対し英語だけでは意思疎通が困難であるという現実を目の当たりにしました。当時私は、将来外国語を使う環境で観光業に関わる職に就きたいと考え英語を学んでいたのですが、とても強い衝撃と絶望を感じ、今まで英語を学んできた意味は何だったのかと考え込むほどでした。またちょうどその頃、英語以外で自分の将来に役立つ強みを作りたいと考えていた私にとって、努力次第でトリリンガルになれる台湾留学はとても魅力的でした。そしてこれは転機だと思い、大学3年生からという、時期的にはかなり遅い留学でしたが1年間の台湾留学を決断しました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

台湾留学に必要な検定は HSK、中国語検定、IELTS があり、私は HSK と IELTS を同時に勉強しました。HSK は中国語検定と比べて出題範囲が明確ですし、公式の参考書も販売されているので独学でも取得しやすいと思います。IELTS も同様に公式の問題集を購入し、また同志社女子大学で開講されている IELTS 対策講座、TOEFL Camp などに参加しました。IELTS はリーディング、リスニングに加えライティングとスピーキングもあり、TOEFL と違って試験監督と対話をするので、独学ではなく実際にネイティブの先生方と練習をする方が効果的でした。TOEFL Camp では留学に行きたいと考える友達とたくさん出会えるので、モチベーション高く、将来のことや留学に関して語り合い、勉強に励むことができました。実際に参加していた多くの友人が協定留学やセメスター留学に行ったり、AES を受講したりしているので、このキャンプはとても効果的だと思います。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後は、私が大学3年生の秋学期から4年生の春学期まで留学の予定だったので、帰国後の就職活動と教育実習のスケジュールを立てました。そこから大まかに就職活動の業界を絞ってキャリア支援部の先生方と面談、教育実習先の高等学校で面接と教育実習のお願いをし、TOEIC などの資格試験を受けました。留学関連では健康診断を受けてワクチンの接種、ビザの申請、留学先大学での寮・学部学科選択、留学先大学から出されたレポー

ト、同志社女子大学の単位の確認などを行いました。また私は下宿をしていたので、実家へ引越しをしました。

④ 現地到着後

事前に空港内に留学先大学の学生が迎えに来てくれると聞いていたので、集合場所へ行き、留学生が揃ってからバスでそれぞれの寮に送ってもらいました。私のグループは主にアジアからの留学生が多く、ほとんどが中国から、次に日本、韓国、ドイツ、アメリカから来た人たちでした。初日は移動のみで、次の日にオリエンテーションがありました。大きなホールで留学の注意事項や前年度生のムービーを見た後、キャンパスツアーに参加しました。その後、履修登録や足りないものの買い出しに IFB という留学生をサポートしてくれる在学生と一緒に行きました。初めは IFB や日本語学科の学生が通訳してくれるので、様々な手続きも問題なく行うことができました。留学前は英語に対して少しだけ絶望感を感じていましたが、やはり英語が話せたおかげで中国語が話せなくてもスムーズに意思疎通や友人ができたので、その点はとても嬉しかったです。また、他言語を使って意思疎通できる素晴らしさを改めて感じました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

静宜大学は月曜日から金曜日まで毎朝中国語の授業があります。授業時間は 2 時間か 3 時間、授業開始時刻は 8 時 10 分、9 時 10 分、10 時 10 分から選べ、私は 9 時 10 分から 3 時間のクラスに所属していました。中国語クラスは入国後すぐに受験したテストの成績で振り分けられ、上のレベルへ行きたい場合は、中国語事務室で音読や会話の簡単なテストを受けます。教室は大学内の建物にあり、とても清潔感がありました。授業は基本的に少人数で開講され、クラスにもよりますが多国籍で様々な国からの留学生と共に受講できます。私の場合、1 セメスター目は 15 人ほどの留学生クラスで、韓国人 1 人を除き全て日本人でした。2 セメスター目はクラスを変更しました。新しいクラスはとても多国籍で、ケニア、タイ、韓国、ロシア、アメリカ、イタリア、フィリピン、メキシコ、ポーランドというように皆違う国から台湾へ中国語を学びに来ていました。

◆ 授業内容、課題、試験

授業内容は日常生活で使う中国語が主なトピックで、レベルが上がるにつれ政治や環境問題が絡んできます。授業の行い方は先生によって異なり、アクティビティ、会話、文章やスピーチ、発音など、それぞれ重視するところが違うので、自分にあった先生を見つけることができます。開講言語は初級クラスでは主に英語を、レベルが上がるごとに英語を使う割合が減り、最終的には中国語のみで中国語を勉強します。また、ある程度話せるようになるとパワーポイントを使ってプレゼンテーションを行ったり、外国人留学生対象のスピーチコンテストに参加できます。課題もクラスや先生によって異なりますが、私は単語テスト、ワ

ークブック、作文、プレゼンテーションなどがあり、試験は各ユニットが終わるごとにまとめのペーパーテストと音読の発音テストがありました。中間・期末試験のときは約15課分の内容がテスト範囲になるのでとても大変でした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

大学は台湾の中部、台中というところにあります。台中は台湾の住みたい街ランキングで1位になるくらい住み心地がよく、観光客も大学の周りにはそれほど来ないので、言語を学びたい学生にとってはとても最適な場所でした。学内はとても広く、建物や施設も綺麗でサービスが充実していました。別料金がかかりますが、プールや本格的なジムも利用可能なので、運動したいという人にもオススメです。また体育館でバドミントンができ、外には大きな陸上トラックやバレーボール、バスケットボールコートがあるので自由に楽しみました。大学の前にはBRT、高速バス停もあるので交通の便がとても良かったです。その他スーパー、夜市、飲食店、コンビニエンスストア、朝食店も、大学や寮の周りにたくさんあるので、基本的に困ることはありませんでした。お店の店員さんは英語などの外国語を話せない人がほとんどなので、中国語を話せないとかなり厳しかったです。みなさん優しいのでゆっくり話せば大丈夫です。

◆ 履修科目

・ Culture Learning

前年度生が、この授業には英語圏・西洋からの留学生が多く参加すると言っていたので、ネイティブと英語を使って交流したいと思い受講しました。留学生を対象に開講されている授業で、台湾の伝統や文化について学び、文化村や先住民族の住む町へフィールドトリップとして5回ほど旅行しました。また小学校に行き、プレゼンテーションをして自分の国の紹介やスポーツをして交流を深めました。授業は週1回2時間ほど英語で開講されています。

・ Media and Entertainment Industry in the Age of Social Network

英語で開講される授業のうち、最も内容が興味深かったので受講しました。留学生を対象に開講されているエンターテインメントビジネスの授業でかなり専門的ということもあり、受講生は主に英語圏、西洋からの留学生で、皆ビジネス専攻の大学院生でした。授業は週1回3時間行われ、1時間講義、1時間グループワーク、1時間プレゼンテーションでした。また週末に任意ですが、ユンリンという新たな観光地へ、イメージビデオのモデルとして受講生皆でフィールドトリップに行ったり、台中の高校へALTの先生としてボランティア参加しました。

・ American Literature

静宜大学に在学中の英語英文学科生に開講されている、アメリカ文学の授業です。ゼミナール科目に似ている授業を、台湾学生と受講したいと思い選びました。週1回3時間、英語で

開講され、主にアメリカの詩と短文を当時の時代背景を参考に考察していきます。基本的にグループワークや、教授とのディスカッションがメインなので、そのための情報収集や分析がとても大切でした。

・ News English and Culture

静宜大学に在学中の英語英文学科生に開講されている、時事英語の授業です。スピーチ力をつけたいと思い受講しました。週1回2時間、イギリス人の元リポーターの方が教授となり、英語で授業を行います。基本的に毎週即興でスピーチを行い、フェイクニュースなど報道に関する事について自分の意見を発表します。さらに、毎週課題として2分間のスピーチをweb上にアップするなど、話すことにフォーカスした授業でした。

・ 日中翻訳(聴講)

この授業は日本人向けに日本語で開講された授業で、主にグループワークがメインでした。日常的な中国語を身に付けたいと思い受講しましたが、正規科目を上記2つの授業で登録していたので、この授業は聴講していました。授業は週1回2時間サザエさんのアニメを見て台詞の文字起こしをし、それを中国語に自分たちなりに翻訳して、グループ内の台湾人・中国人や教授に添削してもらっていました。

◆ 授業、レポート、定期試験

・ Culture Learning

英語圏、西洋からの留学生がほとんどで、プレゼンテーション、エッセイ、ディスカッションなどすべてのレベルが高く、とても勉強になりました。プレゼンテーション内容は主に文化に関する事、例えば正月の祝い方などを自国と台湾で比較し、そこで感じたことや自分なりの考察を発表しました。レポートは長文読解、フィールドトリップの感想文などを提出しました。教授は台湾人ですが、国際部長の方で語学力も高くとても親切でした。この授業はとにかく課題とフィールドトリップが多く忙しかったです。しかしその分貴重な経験をたくさんさせて頂きました。静宜大学に留学するなら1度は受講すべき科目です。

<成績評価>

出席（フィールドトリップを含む）、フィールドトリップ感想文1,500字（英語）×5回分
プレゼンテーション6回（グループ3回、個人3回）

長文読解まとめレポート1枚

・ Media and Entertainment Industry in the Age of Social Network

講義ではメディアデバイスがどのように発展したのか、その過程や歴史を教授がパワーポイントや映画を使用しながら解説を行います。その講義内容を基礎として発展した他のもの、企業は何かなどをグループで話し合い、黒板に書いてそれぞれの考察を皆でシェアします。プレゼンテーションは違う国籍の人と2人1組で、自国の有名エンターテインメント企業の業績や事業などを分析し、自分なりの見解を発表しました。テスト期間はプレゼンター

ション同様、有名エンターテインメント企業についてより深く考察したエッセイを提出しました。授業内で使われる単語がとても専門的なので、英語を勉強してきた私にとってもとても難しく、常に単語を調べ、ネイティブの学生たちに助けをもらいながら受講しました。レポート、プレゼンテーション共に企業紹介ではなく、企業分析をしてどうしてこの企業がここまで発展したのかをビジネス目線で考えなくてはならず、本当に難しかったです。楽しかったです。期末レポートはプレゼンテーション以上に難しく、完成まで2週間ほどかかりました。この授業の教授も親身になって相談に乗ってくれるので、とても良かったです。

<成績評価>

出席（フィールドトリップを含まない）、プレゼンテーション（1人20分＋質疑応答10分）

中間レポート 英語 2,500字

期末レポート 英語 5,000字

高校で行う、自国のクリスマスに関するプレゼンテーション1回

• American Literature

教授はアメリカ人、クラスメートは皆台湾人で、留学生は私1人だけでした。教授とのディスカッションは英語、グループでのディスカッションは中国語と2か国語を同時に話すのでとても大変でしたが、その分言語力は上がりました。教授は80歳くらいのおじいさんで本当に明るく陽気で優しい方でした。文学作品以外にも教授のアメリカでの体験談や今日のアメリカに関する考えをシェアしたり、映画、YouTubeなどを通して当時の時代背景、固定観念、また現在のあり方について考えを深めていきました。中間・期末テストはグループごとにそれぞれ異なる文学作品についてのプレゼンテーション、アウトラインを作成し、教授と作品に込められた意味や作者の作品傾向、その時代に発展したものなど幅広くディスカッションしました。この授業は調べる事柄が非常に多いので、事前準備がとても大変でしたが、グループ皆で力を合わせて毎回課題制作をしていたのでやりがいがありました。

<成績評価>

出席、プレゼンテーション3回、

アウトライン制作とその内容についての発表、教授とのディスカッション3回

• News English and Culture

この授業も英語英文学科生対象に開講されているので、クラスメートは台湾人ばかりで、留学生は私とドイツ人の女の子1人だけでした。主に学生が主体となって自分の意見を述べ、その意見に対して教授がアドバイスや補足説明を行っていました。自分の意見、なぜそう思ったのか、具体例、今後の予想など論理的に考え述べるスピーチを即興で行っていたので、最初は戸惑いもありましたが、人前で話す度胸と論理的思考力が徐々に身についたと思います。中間・期末テストも同様に、スピーチまたグループごとにプレゼンテーションを行いました。この授業はたくさんの課題提出に加えいきなりテスト、いきなりスピーチというこ

とが授業中多く本当に大変でしたが、教授は個人の意見を尊重してくれるのでとても心強かったです。

<成績評価>

出席、態度

毎回の課題提出（ディクテーション、2分間スピーチ、自分なりの考察レポート）

毎授業中のスピーチ

グループプレゼンテーション2回（中間・期末テスト）

・日中翻訳

日本人ばかりで主に自主勉強という感じでした。授業時間内で終わらない時は課題になるので、いかに早く正確に翻訳するかが重要でした。中間・期末テストでは、翻訳した中国語を音読して発表し、自分の発音や話し方を訂正していただきました。個人的に中国語初心者には難しい授業だと思いました。

<成績評価>

出席、毎授業で翻訳した文、音読（発音・話し方）

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

静宜大学熱舞社というダンスサークルに所属し Hip Hop を専門に練習していました。サークル活動は週に3回（月火木）18:30～21:00 まで、発表会前は週6回（月火水木土日）18:00～24:00 まで練習していました。発表会以外にも BBQ、ダンスパーティー、ダンスコンテストなどたくさんイベントがありました。熱舞社には Hip Hop 以外にも Jazz、Dance Hall、Breaking、Popping があり、発表会前は宣伝のため、皆でコラボレーションダンスを校内で披露したり、舞台セットを一から作りました。特に印象的だったのは夜市でのビラ配りです。日本でも経験したことのない活動を台湾で初めて行い、とても大変でしたが、留学生という立場をうまく利用して配り終えることができました。このサークルの良かったところは、いい意味で外国人扱いされなかったことです。サークル内には私を含め、1 Semester 目は5人、2 Semester 目は3人しか外国人がいませんでしたが、中国語がどれだけ話せなくても他の台湾人と同じように皆が接してくれ、仕事も割り振ってくれました。自分と同世代の学生の中国語を学びたいと思って参加した私にとって、気を使わず、差別せずに接してくれることは本当に嬉しかったですし、何より居心地がよかったです。またこれは態度だけでなく言語の面でも同じで、中国語を勉強するモチベーションが上がり、自分の中国語力の伸びが目に見えて分かりました。サークル活動を通して、他の留学生と比べ圧倒的にネイティブの中国語を聞く時間と自分が中国語を話す機会が多かったので、リスニング力やスピーキング力、特に会話のスピードと発音がどんどん改善され、結果として学内で行われた留学生スピーチコンテストでは優勝することができました。初めは本当に中国語が分からず、また忙しいという理由から辞めたいと思うこともありましたが、温かいサークルの仲間の

おかげで心身ともに成長でき本当に感謝しています。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

私は前年度生と異なり、大学から徒歩10分ほど離れた外にある、會館という4人部屋の寮に住んでいました。私は4人部屋を事前登録で選択したので會館になりましたが、おそらく3人部屋を選択すると大学内の喜嘉という寮になるようです。静宜大学では、語学研修と正規科目履修期間が同時期にあるので、台湾に入国してからずっと同じ寮で生活しました。私が住んでいた會館は喜嘉と違って各部屋にお風呂とシャワー、冷蔵庫、独立洗面台が付いており生活しやすかったです。また比較的新しく、1階のロビーにはテレビ、ソファ、電気圧力鍋と電子レンジが完備され、とてもアットホームな空間でした。勉強机は4人分が並べ、ベッドは二段ベッドでした。私は初め同じ留学生の韓国人2人、日本人1人と同部屋でしたが、中国語力向上のため台湾人3人の部屋に移動しました。基本的に在學生と留学生は本人が希望しない限り同部屋にはならないようなので、申請すると良いと思います。食事は寮内で料理ができないので、外へ食べに行ったり、テイクアウトやデリバリーを利用していました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

1回目の長期休暇は年末で、3泊4日ほど韓国へ旅行しました。韓国は中国や台湾からの観光客、また結婚して韓国に移住している台湾人が多いため、観光地では英語より中国語の方が使えて驚きました。韓国旅行から台湾へ帰国後はそのまま台北へ行き、年越しのカウントダウンを台北101で過ごしました。その後台湾で元日は休日ではないので寮に戻り、次の日から通常通り授業に出席しました。とてもハードな旅行でしたが、どれも内容が濃くいい思い出です。2回目の長期休暇は台湾がちょうど春節で寮内に住めなかったため、高雄出身の友人、ルームメイトとともに、高雄へ旅行した後、日本へ一時帰国しました。帰国後は就職活動関係のセミナーやインターンシップに参加していました。3回目の長期休暇は、同志社女子大学へ交換留学に来ていた台湾人の友人を訪ねて、台南と高雄へ1人で行きました。初めて1人で住み慣れない場所へ行きましたが、おかげで何でも1人でチャレンジできる精神力が身についたように思います。その後夜市や有名な観光地巡りをし、とても楽しかったです。4回目の長期休暇は、留学が終わった後だったのでとても長く、2週間ほど台中に残って語学の授業を受けたのち帰国しました。そして日本に帰国後、台湾人の友人3人と2週間ほどベトナム縦断旅行をしました。旅行の日程から日常会話まで、この時には全て中国語で話せるようになっていました。台湾は日本と比べてとても小さいので、どこでも気軽に旅行できてよかったです。個人的には台北よりも台南や高雄の方が食べ物、現地の方の人柄など含めて全体的に楽しかったです。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

私は、留学開始年次が3回生の秋学期ということもあり、皆が就職活動中の留学でした。そ

の分、心配や不安もありましたが、留学は絶対に1年行きたかったので迷わず出願しました。私はある程度行きたい業界が決まっていたので、留学前はその業界や就職活動に関係するセミナーや短期のインターンシップに積極的に参加しました。私は就職活動と勉強どちらも妥協したくなかったため、留学中は勉強に専念しました。唯一やっていたことは、行きたい業界研究と資格取得です。語学はやはり留学へ行ったというだけでは実力が評価されないためTOEICなどを受験していました。中国語の検定試験に関しては、簡体字と繁体字で全然違うため留学中は受験しませんでした。それよりも教科書の内容や会話を通してボキャブラリーとリスニング力を高めることに専念しました。その他、就職活動の流れなどの情報は全て、友人やキャリア支援部からメールでアドバイスをいただいていたと思います。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

台湾の高校に英語のALTの先生として特別参加した授業が、とても思い出に残っています。個人的に高校生は思春期で照れ屋さんが多いイメージだったので、元気よく歓迎してくれたときは驚きました。また外国人ということで、少なからず差別や疎外感を感じていたときに参加したボランティアだったので、こんなにも外国人の自分を歓迎してくれるのかと感動したのを覚えています。クラスにはペアのフランス人の学生と行き、自国のクリスマスについて紹介、その後生徒と一緒にシュガークッキーを作り記念撮影をして終わりました。台湾人の高校生たちは、私たちのプレゼンテーションを熱心に聞いてくれ、また写真撮影も芸能人並みに列を作ってくれて、自分が日本人だということを誇りに思えたボランティア活動でした。日本の高校にもこのような機会があればよかったなと思いました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

1番辛かったことは、やはりネイティブスピードの中国語についていけなかったことです。台湾人の友人やルームメイトはとても気さくでよく遊びに連れて行ってくれ、本当にいい意味で私を外国人扱いしなかったため、私がどれだけ中国語がわからなくてもネイティブのフルスピードでジョークや口語で話しかけてくれました。1 Semester目は、特に私が中国語をほぼ話せなかったため、よく置いてけぼりになっていましたが、その分勉強に対する熱意やモチベーションが上がりました。おかげで早い中国語や略語など会話に強くなり、今では比較的自然的な中国語を身につけることができましたと思います。言語が通じないときは特に精神的に辛く、本当に苦勞しましたが、継続的に勉強を続けて良かったと心から思います。友人達のスパルタ中国語講座には、とても感謝しています。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

台湾は基本的に日本と似ているため、そこまで大きな違いはありませんでしたが、やはり交通ルールとトイレには衝撃を受けました。バイクは日本の何十倍も利用者が多く、また台湾

では歩道も走行できるので、特に郊外の道を歩く際は気をつけなければいけません。さらに、日本と違って歩行者よりも車やバイクが優先なので、歩行者がいようが止まることなく目の前スレスレを走行してきます。日本のように止まってくれるだろう、青信号だから、歩道だからと思わず、常に周りを見ながら歩くように気をつけてください。また、トイレははっきり言って日本より綺麗ではありません。近年トイレットペーパーが流せるものに変わりつつありますが、まだほとんどのトイレでは使用済みトイレットペーパーを、横のゴミ箱に捨てます。そのため、トイレ環境もあまりよくなく、慣れるのには少し時間がかかるかもしれません。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、留学生がたくさんいて国際色が強かったことです。私は英文科ということもあり、中国語だけでなく英語も同時に学ぶつもりで留学したので、英語圏や西洋からの留学生が多かったことはとてもプラスでした。留学生向けの英語で開講される授業は、95%が英語圏・西洋からの留学生で、感覚としては本当に英語圏で授業を受けているようでした。またその分先生の英語レベルや授業内容も優れていて、本当についていくのが大変でしたが、貴重な経験になりました。さらに留学生が多い分、頻繁にツアーやフィールドトリップに連れて行ってもらえたので、その点に関しても手厚いサポートが充実していました。反対に良くなかったと思う点は、先生方が私たち外国人に慣れている分扱いが雑な時があったところです。もちろんいつも優しく支援していただいていたのですが、忙しいのかなかなか話が通じていない、情報を知らせてくれるのが遅いということが多々ありました。ですので、いつも自分から事務所に行くなり、友達に聞くなりして、情報收拾をしていました。さらに1つ個人的に残念だと思ったのは、日本人は日本人で固めて行動、例えば校内ツアーや履修登録などを行いたがるので、極力留学先で日本人と固まって日本語を話したくなかった私にとっては辛かったです。せめて英語を使うグループに行きたかったのですが、日本人だからという理由で日本語学科の学生に止められ、理由を話してもなかなか行かせてくれませんでした。何回も説得すると英語圏・西洋学生のグループに入れてもらえたので、根気よく交渉すべきだと思いました。実際に移ってみて、やはり留学初期に仲良くなったコミュニティはずっと続くので、積極的に行動してよかったですと思います。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

勉強関連：ノートパソコン(持ち運びしやすいもの)、USB×2 (学校のパソコンなどに挿すとデータが飛ぶことが多々あるため)、下敷き、電子辞書、繁体字の紙辞書、大きいメモ付箋、テープのり、スケジュール帳×2 (就職活動用と普段用)。文房具やノート類は少なめで足りない時に買い足すくらいがちょうど良かったです。また個人的に市販の単語帳、文法

書、参考書は簡体字を使っているのので、自主勉強をする際は授業で使う教科書内容を復習する方が効果的だと思いました。

食事関連：マグカップ、大きめのお椀、水筒、お箸類、食器洗用洗剤とスポンジ、味噌汁・スープ類、カップ麺（そば・うどん）、タッパー

服装関係：運動着上下1セット、ランニングシューズ、競泳水着セット、サンダル、薄い上着、ウルトラライトダウン、帽子、折りたたみ傘

生活用品：変圧器（台湾は必要ないが海外旅行に行きたいのであれば必須）、U字型のミニ枕（個人的に寮の枕が低かったため）、室内用サンダルまたはスリッパ、ビニール袋、延長コード、Wi-Fi、圧縮袋、小さいキャリーバックまたは大きめのリュックサック、日本円、証明写真、シャンプー

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学面：你好きくらいしか通じない状態から日常会話は問題なく話せるようになりました。中国語検定試験はまだ受験していませんが、留学前は HSK3 級を取ったので、次は HSK5 級に挑戦する予定です。英語に関しては、アカデミックなプレゼンテーションが留学前と比べて緊張せずにできるようになったと思います。また日常会話では気さくに話せるようになり、話題の引き出しも多くなったと思います。

性格・思考・行動：留学前はどうしても自分に自信がなく、人と比較して落ち込んだり、皆と同じになるように気を使っていました。また、人からの注目や目立つことが苦手だったのですが、留学してからは自分に自信ができました。それは学力的にもそうですが、やはり1番はいろんなことを経験したことからくる心の余裕だと思います。何をするのも、不安やどうしようという感情ばかりだったけれど、今は何か新しいことはないかというワクワクが大きいです。また今まで台湾で外国人として常に周りとは違う立場で注目されて生活していたので、他人の視線に恐怖心がなくなり、自分を堂々とアピールできるようになったと思います。さらに留学中、自分が辛い・できればやりたくないと思う選択肢をあえて選ぶようにしていたので、精神面でも強くなったと思います。結果的に今では1人行動は問題なく、自分のやりたいと思っていたことに挑戦できています。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学先が英語圏、アジア、どの国でもそうですが、留学すると決めたのなら全力で何事もチャレンジすべきだと思います。大学生というこの時期がゆっくり将来について考えられ、また気持ち的にチャレンジしやすい年齢だと思うからです。するかしないかで悩んでいるのなら、短期間でも私はすべきだと思います。今まで暮らしていた日常が日常でなくなる変化はもちろん困難ばかりですが、その分新たな発見が、成長があります。新しい世界と自分の成長を体感できるワクワク感をぜひ味わって欲しいです。また、もし出願スコアで悩んでいるのであれば、国際課主催の TOEFL Camp や IELTS 対策講座などを活用すると良いと思

います。留学はそう何回もあるチャンスではないと思うので、頑張り時だと思って頑張ってください。でも休む時はしっかり休んでベストを尽くしてください。応援しています！

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

留学を通してやはり外国と繋がる仕事に就きたいと考えています。今はまだ社会人として未熟なので、まずは日本で一人前になれるよう努力します。そして海外在住など外国に拠点を置いて仕事をしたいと考えています。また、実際に国外に出てみて、よく日本語に関する質問をされるので、日本語教員資格も在学中に取得し、日本語や日本の良さを伝えていきたいです。趣味的な目標としては、世界遺産を見に行くことが好きなので、生涯を通して世界一周できればと考えています。

V. 写真



ダンスサークルの発表会直後の写真です。前に立っているのが大学2年生の幹部で、後ろの大学1年生と私たち留学生が彼らの振り付けしたダンスを踊りました。ここでのサークル活動は忙しかった分、留学生活で最も充実した日々でした。



これは台湾で購入したスターバックス・コーヒーの飲み物です。個人的にスターバックスが1番、マクドナルドが2番目に注文するのが難しかったです。台湾などの中国語圏では外来語が全て発音の似ている漢字または意味が同じ漢字に訳されるため、中国語が話せるようになってもこの2つのお店での注文は慣れませんでした。台湾のスターバックスは日本と比べてたくさんの限定グッズが販売されているのでぜひチェックしてみてください。



これは Culture Learning のフィールドトリップで台湾の先住民族が住む山に行き、皆でブレスレットを作った時の写真です。他にも結婚式の伝統的なダンスを見たり、食事を皆で味わいました。アジア人だけでなく英語圏や西洋からの留学生も多く参加しており、またフィールドトリップを通して様々な台湾の文化を経験できました。



これは高雄にあるエビ釣り場での写真です。なかなか釣れなかったのですが、お店や常連のおじさんたちと仲良くなりアドバイスをいただいて釣れた 1 匹です。台湾で特に高雄の人は気さくに話しかけてくれる人が多く、この後も釣れていないのにエビを大量に食べさせてくれたり、お店のおじさんが駅まで送り迎えをしてくれたり、日本ではあり得ないくらいサービスしてくれました。高雄は他にもいいところがいっぱいで、私が台湾で 1 番好きな街です。



これはルームメイトとクリスマスパーティをした時に撮った写真です。各行事はいつも皆でお祝いしており、この時はツリーやプレゼントを用意して楽しみました。他にも定期試験の時には4人揃って勉強し、誰かが徹夜をするときはマクドナルドをデリバリーして皆一緒に徹夜で勉強をするのが恒例行事でした。初めて台湾人ばかりの部屋に1人で移動するときはとても緊張しましたが、彼女たちが私のルームメイトだったおかげで毎日楽しく過ごせました。